

☆☆図書室だより☆☆ ☆第24号☆

☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆



2016年 8月(後期)～ 11月(前期) 新規登録の書籍をご案内します

書名 (ご寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
そうか！なるほどキリスト教	荒瀬牧彦 松本敏之 監修	日本キリスト教団 出版局	[赤 190 A]
ユダとは誰か	荒井 献 著	岩波書店	[赤 192.8 A]
ビジュアル保存版 ナショナルジオグラフィック DVDBOOK ユダの福音書 イエスと“裏切り者”の密約	マービン・マイヤー 著	日経ナショナル ジオグラフィック社	[橙 193.9 Ma]
新装版 原始キリスト教史の一断面 福音書文学の成立	田川建三 著	勁草書房	[橙 193.62 Ta]
世界の名著 続11 ランケ 列強論 宗教改革時代のドイツ史	村岡 哲 訳	中央公論社	[黒 201.1 Ra]
メイド・イン・ジャパンのキリスト教	マーク・R・マリンス 著	トランスビュー	[赤 192.1 Mu]
日本の伝道	近藤勝彦 著	教文館	[茶 197 Ko]
書名 (購入書)	著者名など	出版社	分類シール
井上洋治著作選集 1 日本とイエスの顔	井上洋治 著	日本キリスト教団 出版局	[赤 190.8 I 1]
// 2 余白の旅 思索のあと	//	//	[赤 190.8 I 2]
// 3 キリストを運んだ パウロの生涯	//	//	[赤 190.8 I 3]
// 4 わが師イエスの生涯	//	//	[赤 190.8 I 4]
// 5 遺稿集「南無アツバ」の祈り	//	//	[赤 190.8 I 5]
キリスト教カウンセリングブックレット19 健康への歩みを支える 家族・薬・医者との役割	石丸昌彦 著	キリスト新聞社	[黒 193.7 I 19]

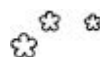
ご紹介本 ...

江原 有輝子 伝道師 より

『ガリラヤのイエシュー 日本語訳新約聖書四福音書』

山浦玄嗣 著 イー・ピックス出版 [橙 193.6 Ya]

石巻の山浦玄嗣医師は、自分の母語であるケセン語への聖書翻訳のために、60歳を過ぎてからギリシャ語を一から学んだ。ケセン語の4福音書の出版後、その経験と方言学の知識を生かして今度は登場人物に各地の言葉を話させる4福音書を書いた。それがこの本である。ケセン語で話すイエシューさまと弟子たちの会話がなんと生き生きしていることか。イエシューさまはガリラヤ湖畔でシモンとアンデレの兄弟にこうお声をおかけになった、「やい、お前だぞ、俺さ付いで来オヤ！ そうしたら、お前だぞば人オ漁る浜人にしてけんベア」。おお、これさ聞いたら即座に付いで行きたくなるベア！ この本は言葉の力を再認識させてくれる。聖書は神の言葉であり、そのみ言葉が人を生かす。み言葉は人の深い部分に入っていくが、それが「自分の言葉」であるときに、人の最深部に至りつく。願わくは、さまざまな方言への聖書翻訳が行われて、より多くの人を救わんことを！



『井上洋治著作選集 1 日本とイエスの顔』

井上洋治 著 日本基督教団出版局 [赤 190.8 I 1]

井上洋治氏はカトリック教会の神父でした。(2014年逝去) 十数年前に上智大学の夜間講座「死の準備教育」に一年間通った時、井上神父が「良きサマリヤ人」の聖書講解で語った言葉に深い感銘を受け、機会があったら著書を読んでみたいと思っていました。そして今回教会の図書で、著作選集全5巻を購入されたとうかがい、1の「日本とイエスの顔」を読みました。

「イエスの福音を受け入れて生きることによって、また神の愛を知ったからといって、この世の哀しみ、苦しみがなくなるわけではありません。イエスの約束された喜びと平和と自由とはもっと次元の違った心の奥に広がっていくものなのです。」

井上神父はイエスの教えを日本的感性に包まれる仕方で、日本人の心の琴線に触れるようなやさしい言葉で、良寛、芭蕉、西行法師…… 達を登場させながら、私の大好きな神様の「あなたかさ」を見事に語っています。(E, m)



『キリスト伝説集』

ラーゲルレーヴ 著 岩波書店 [黒 949.8 La]

この本の著者、セルマ・ラーゲルレーヴは『ニルスのふしぎな旅』の著者として知られています。彼女はまた女性初、スウェーデン人初のノーベル文学賞受賞者(1909年)でもあります。

『キリスト伝説集』は11編の小説が納められた短編集です。どの小編もアドベントにふさわしい童話や寓話達だと思いますが、クリスマスにまつわる“ほんとうのこと”を描いた「聖なる夜」や、ヘロデに従属し、争いしか知らなかった兵士がついに“おさなごの前にひざまづく”さまを綴った「ベツレヘムの子ら」が特におすすめです。

聖書のみことばは、時にわかりにくく、「聖なる夜」の“わたし”のように、「疑問」が氷のように固まって胸につかえることがあります。この本のお話を読むと、その氷が溶けてしまうような暖かい気持ちになりました。主を待ち望むこの季節、どうやって聖夜に知人を誘おうか悩んでいる方にぜひおすすめします。(m.i.)



『さんびかものがたり II この聖き夜に アドヴェントとクリスマスの歌』

川端純四郎 著 日本基督教団出版局 [茶 196.5 Ka]

「♪エッセイの根より」が謎解き歌(なぞときうた)の形をしたマリア賛歌でクリスマスの物語が次々続く民謡だったこと…「♪天なる神には」は曲の美しさに魅かれるばかりでしたが、気づけば‘地には平和’というクリスマスの願いのみの歌詞であること…「♪きよしこの夜」も元は平和の賛歌だったのがチロル民謡として牧歌的になっていったことなどなど…エピソードが楽しめます。

讃美歌は教会の改革や発展、また国事情と共に、作詞者作曲者の信仰、思いが込められ歌われ伝えられてきたことを知ります。アドヴェントからクリスマスの期間、何度も心から賛美したくなると思います。(Ri)